

株式会社 JCU



証券コード：4975

株主・投資家の皆様へ

第56期

# JCU REPORT

中間報告書 (2015.4.1—2015.9.30)

## CONTENTS

目で見える連結決算ハイライト  
セグメント別業績概況  
株主・投資家の皆様へ  
トピックス 水事業の紹介

特集 **FPC戦略プロジェクト**  
連結財務諸表  
株式の概況 / 会社概要

## 目で見る連結決算ハイライト (第56期中間)

売上高

9,928 百万円

前年同期比5.8%増



営業利益

2,350 百万円

前年同期比9.6%増



経常利益

2,387 百万円

前年同期比9.8%増



親会社株主に帰属する四半期純利益※1

1,605 百万円

前年同期比11.4%増



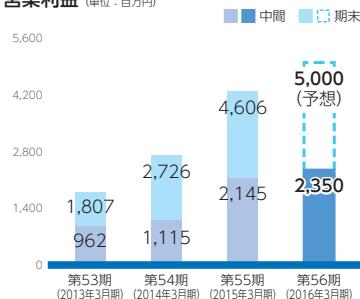
※1 「企業結合に関する会計基準」等の適用に伴い、従来の「四半期純利益」は「親会社株主に帰属する四半期純利益」に名称が変更になりました。

### 財務ハイライト(連結)

売上高 (単位: 百万円)



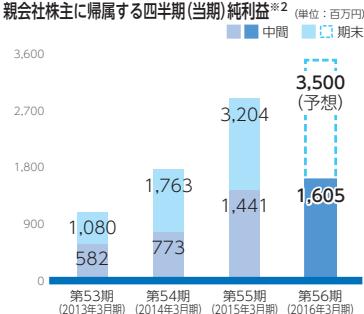
営業利益 (単位: 百万円)



経常利益 (単位: 百万円)



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益※2



純資産/総資産 (単位: 百万円)



ROE (単位: %)



※2 「企業結合に関する会計基準」等の適用に伴い、従来の「四半期(当期)純利益」は「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」に名称が変更になりました。

## 装置事業

11.2%

## 新規事業

4.1%

## セグメント別 業績概況

## 薬品事業

84.7%

## 薬品事業

■売上高 (単位: 百万円)



売上高  
8,412  
百万円  
前年同期比  
12.2%増

■セグメント利益 (単位: 百万円)



セグメント利益  
3,062  
百万円  
前年同期比  
8.7%増

## 当社薬品使用例



自動車部品



プリント配線板

薬品事業では、国内外市場において表面処理薬品の製造販売、関連資材の仕入販売を行っております。もっとも重要なマーケットと考えているのは、一つは自動車や住宅産業であり、もう一つはプリント配線板や電子部品などのエレクトロニクス産業であります。当中間期は、中国、台湾、韓国におけるプリント配線板用めっき薬品の販売が引き続き順調に推移し、中国においては、自動車用めっき薬品の販売も順調に推移した結果、売上高・セグメント利益ともに前年同期を上回りました。

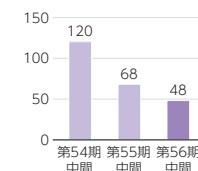
## 装置事業

■売上高 (単位: 百万円)



売上高  
1,106  
百万円  
前年同期比  
25.4%減

■セグメント利益 (単位: 百万円)



セグメント利益  
48  
百万円  
前年同期比  
29.0%減

## 製品一例

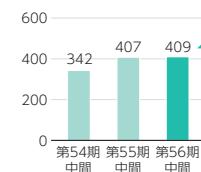


全自動表面処理装置

装置事業では、全自動表面処理装置及び表面処理装置の付帯機器の製造販売を行っております。当中間期は、受注が順調に推移し受注高は前年同期を上回りましたが、売上計上には至らず、売上高・セグメント利益ともに前年同期を下回りました。

## 新規事業

■売上高 (単位: 百万円)



売上高  
409  
百万円  
前年同期比  
0.6%増

■セグメント利益 (単位: 百万円)



セグメント損失  
244  
百万円

## 新規事業一例



太陽光発電装置

新規事業では、プラズマ技術を利用したプリント配線板のエッチング及び洗浄用装置の販売、スパッタリング装置による着色処理、貴金属めっき薬品の製造販売、コーティング薬品の製造販売、太陽光発電設備の設置・施工等を行っております。当中間期は、プラズマ装置の販売が順調に推移したものの、売上高・セグメント利益ともに前年同期並みとなりました。

# 世界的に景気が低迷する中、 当社は着実に目標利益を達成

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2005年12月22日に東京証券取引所市場第二部に上場して、当社は独立会社としての第一歩を踏み出しました。それから早いもので10年の節目を迎える年となりました。私たち経営陣は、それに感謝する意味で中間期10円、期末10円（予定）の記念配当に踏み切りました。第56期中間期（2015年4月1日から2015年9月30日まで）の決算は、売上高99億28百万円（対前年同期比5.8%増）となり、営業利益23億50百万円（同9.6%増）、経常利益23億87百万円（同9.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益16億5百万円（同11.4%増）となりました。通期につきましては、不確実なところが無いわけではありませんが、海外現地法人の売上状況を勘案して、売上高200億円、営業利益50億円、経常利益50億円、親会社株主に帰属する当期純利益35億円を目標としております。

今後を見通す上で、少し経済についても触れてみたいと思います。

マクロ経済の概況につきましては、米ドル金利上昇観測と為替変動により、ほとんどの国で景況感が悪化しております。また、中国の人民元切り下げの影響は色々な国や地域に好ましくない影響を与えております。中国自体は5%程度の切り下げで済んでおりますが、台湾には米ドルに対して10%程度の貨幣価値の下落をもたらしています。台湾の製造業は中国に生産シフトしてきており、台湾は中国の調整弁となっていると私は考えています。通貨下落は台湾に限らずベトナムやインドネシア、メキシコにまで及んでいるのです。

ミクロ経済の概況として、当社に関連するプリント配線板業界について触れたいと思います。近年、プリント配線板メーカーで大幅に利益を上げている企業は、フレキシブル基板を製造する企業となっています。フレキシブル基板

とは極めて薄く自在に曲げることができるプリント配線板のことです。スマートフォンをはじめとするモバイル情報端末の高機能化・小型化により、その需要はますます高まっております。前回の年次報告書でも記述しましたが、当社はフレキシブル基板の製造において革新的な工法を開発するため、社内にプロジェクトを立ち上げました。現在、その薬品と装置の開発に全力を挙げて取り組んでいます。今期中にはその開発を完了したいと考えております。プロジェクトの進捗については、後のページにてご説明を申し上げます。また、新規事業として開始した中国における水事業の取り組みについてもご説明申し上げますので、併せてご高覧ください。

今後とも、株主・投資家の皆様のご期待に応えるべく経営陣、社員一同団結して努力することをお約束いたしますので、相変わらずのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



2015年12月

代表取締役会長兼CEO 粕谷佳允

## 水事業の紹介

中国では環境問題の一つとして、飲料水の安全性が大きな問題となっています。国を挙げて改善に取り組んでいますが、問題解決にはまだまだ時間を要するものと思われます。この問題に対し、当社は中国の人々に日本の良質な天然水を提供するため、水事業を新しく立ち上げました。2015年8月より中国北京へ向けて富士山麓の天然水である当社ブランドの「富士桜長命水」(中国販売名：富士桜ちょうめい水)の輸出を開始しています。すでに現地で受注をいただいております、今後も定期的に輸出する予定となっております。

### 中国での活動

当社の水事業は、北京の現地法人を通じて展開しております。近年中国ではインターネット環境が充実し、パソコンやスマートフォンから商品を購入する人が年々増えてきています。当社は、まずこれらの人々をターゲットに、ホームページ制作・インターネット通販サイトの開設を行いました。インターネット通販以外ではコンビニチェーン、日系スーパー、デパートに対して提案を行っており、代理店及び販売店の新規開拓を行っております。また、上海では水事業に関する現地法人を設立する予定で、2016年早々の活動開始を目指しています。

### 今後の展開

中国市場の次の展開として日本国内での販売を検討しております。日本国内の宅配水市場は拡大傾向ですが、一般家庭への普及率は低く、成長の余地はまだあると考えています。当社としては、この分野での新規参入を目指すべく、現在調査を行っている最中です。今後とも当社新規事業にご期待ください。

### 製品紹介

世界文化遺産に指定された富士山の麓、標高1,000mに位置した富士河口湖町の良好な採水地で、地下150mから汲み上げた貴重な天然水。バナジウムを59 $\mu$ g/L含有。容量12Lで水が減っても容器内に空気が入らない衛生的な使い捨てタイプ。また、サーバーが無くても給水可能な蛇口付。



富士桜長命水  
(中国販売名：富士桜ちょうめい水)

## FPC(フレキシブル基板)戦略プロジェクト

進捗報告

## 進捗と今後の展開

私たちはプロジェクト立ち上げと同時に、ロール to ロール式めっき装置の開発を急ピッチで進めてきました。これまでに無い装置の開発ということもあり試行錯誤の連続で、特に苦労したことは、素材フィルムの搬送です。素材フィルムは厚さ $12.5\mu\text{m}$ という薄さのため、ロールに巻き取ることがとても難しく、うまく巻き取ることができませんでした。ちなみに、家庭で食品を保存する際に使用するラップの厚さが $11\mu\text{m}$ 前後ですので、いかに薄いかということが分かるかと思えます。試行錯誤の末、ようやく素材フィルムの搬送にも目処が立ち、現在は薬品と装置の相性を確認するため社内の最終試験を行っております。年明けの早い段階で、顧客の評価試験を開始できるよう、プロジェクトメンバー総出で試験に臨んでおります。

今後は、顧客の要望に対応しながら薬品と装置をセットで納入していただけるように拡販を行い、FPC市場の成長を downstream 企業としての地位を築けるように努めてまいります。



ロール to ロール式めっき装置外観



## 前回のおさらい

前回の年次報告書で、当社が今期取り組んでいるFPC(フレキシブル基板)戦略プロジェクトを紹介しました。進捗報告の前に、簡単に前回のおさらいを記します。

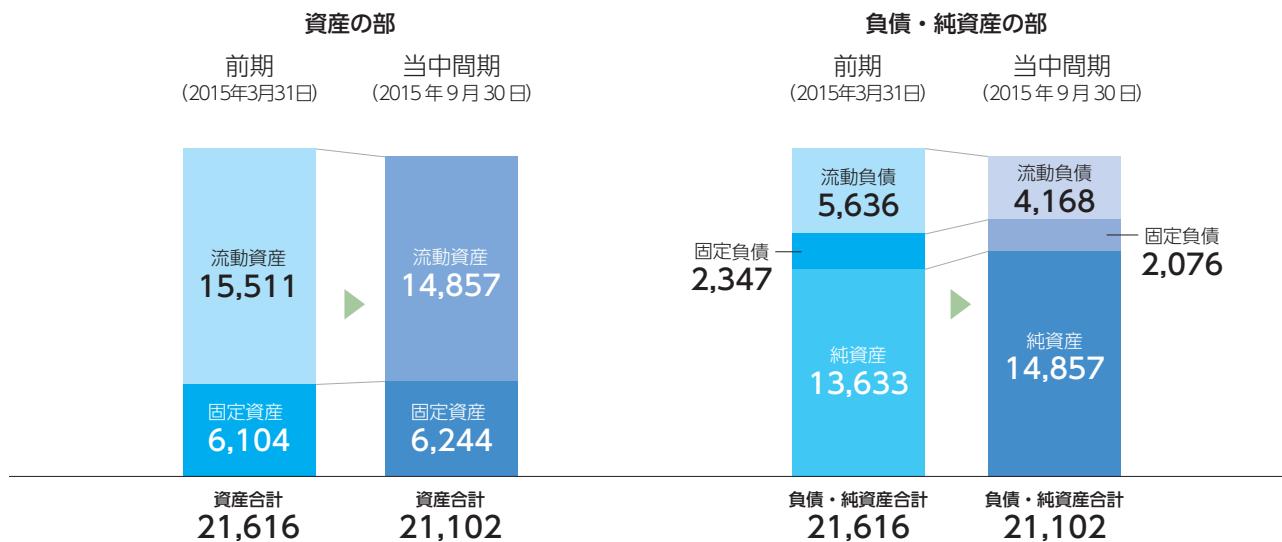
FPCとは薄く柔軟性があり折り曲げが可能な基板のことです。近年、スマートフォンに代表されるモバイル情報端末を中心にFPCのニーズが高まっています。私たちはこのFPCそのものを製造するのではなく、FPCを構成する主要部材であるフレキシブル銅張積層板(以下、FCCL)の製造において新しい工法を提案しようとしているのが本プロジェクトの目的です。

FCCLを製造する際に、素材のフィルムに電気が流れるような薄い金属皮膜を形成する必要があり、現在はスパッタリングという技術が用いられています。しかし、このスパッタリングのコストが高く、FPC自体も高価となってしまっています。また、モバイル情報端末の高機能化に伴いFPCの更なる微細化が要求されています。当社はコストダウンと更なる微細化を目的として、この薄い金属皮膜を「めっき」で形成する新工法を開発しました。薬品はすでに完成していますが、FCCLの生産性向上(コストダウン)には、ロール to ロール式めっき装置の開発が必要となり、その開発と顧客対応を図るため、プロジェクトを立ち上げました。

## 連結財務諸表

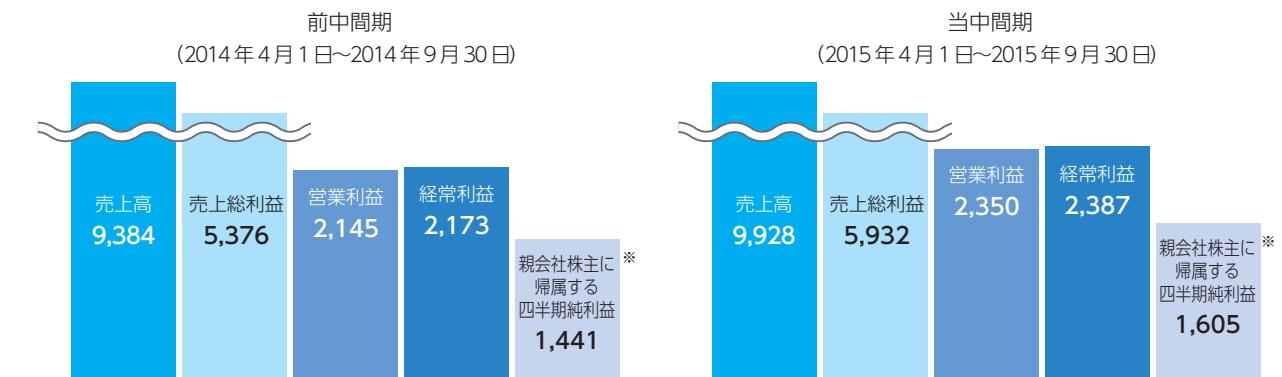
### 連結貸借対照表

(単位:百万円)



### 連結損益計算書

(単位:百万円)



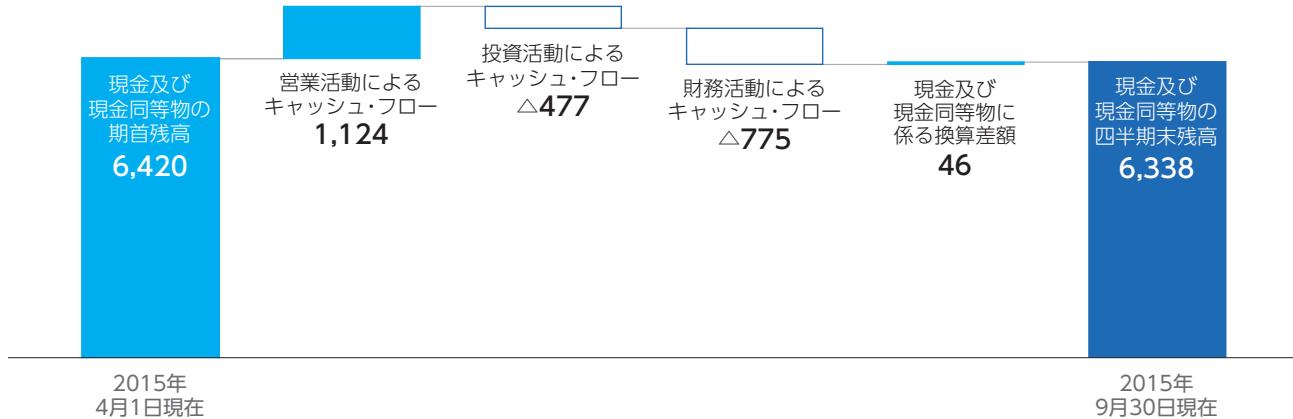
※「企業結合に関する会計基準」等の適用に伴い、従来の「四半期純利益」は「親会社株主に帰属する四半期純利益」に名称が変更になりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

当中間期

(2015年4月1日~2015年9月30日)



財務のポイント

● 資産

流動資産は、主に在庫の減少や繰延税金資産の減少により653百万円減少し、14,857百万円となりました。固定資産は、主に海外での株式の取得による投資有価証券の増加により140百万円増加し、6,244百万円となりました。

● 負債

流動負債は、主に法人税の支払による未払法人税等の減少や買掛金の減少により1,467百万円減少し、4,168百万円となりました。固定負債は、主に借入返済による長期借入金の減少により270百万円減少し、2,076百万円となりました。

● 純資産

純資産は、主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加により、前連結会計年度末に比べ1,224百万円増加し、14,857百万円となりました。

● 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益の増加や棚卸資産の減少により、営業活動によるキャッシュ・フローは1,124百万円となりました。また、売上債権の増加があった前年同期と比べ、収入が279百万円の増加となりました。

● 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出は減少しましたが、投資有価証券の取得による支出が増加したことにより、投資活動によるキャッシュ・フローは△477百万円と、前年同期と比べ支出が162百万円の増加となりました。

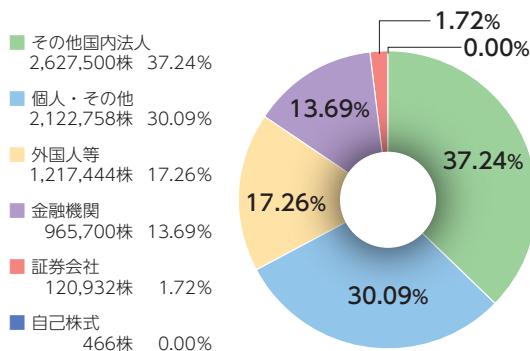
● 財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金支払額の増加により、財務活動によるキャッシュ・フローは775百万円の支出となりました。また、長期借入金の実行等があった前年同期と比べ1,027百万円の減少となりました。

## 株式の状況

発行済株式総数…………… 7,054,800株  
株主数…………… 4,920名

## 所有者別株式分布状況



## 大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	264,400	3.74
日本パーカライズング株式会社	227,000	3.21
日本高純度化学株式会社	220,000	3.11
粕谷佳允	207,600	2.94
荏原実業株式会社	200,000	2.83
株式会社スレイ	200,000	2.83
JP MORGAN CHASE BANK 380634	200,000	2.83
日本化学産業株式会社	186,000	2.63
神谷理研株式会社	160,000	2.26
栄電子工業株式会社	160,000	2.26

(注) 持株比率は自己株式(466株)を控除して計算しております。

商号 株式会社JCU(2012年10月1日より)  
所在地 東京都台東区東上野四丁目8番1号 TIXTOWER UENO 16階  
設立 1968年(昭和43年)4月1日  
資本金 1,176,255,128円

- 事業所
- 国内
    - 総合研究所 生産本部 大阪支店 名古屋支店 九州営業所
  - 主要な連結子会社
    - JCU(上海)貿易有限公司
    - JCU (THAILAND) CO., LTD.
    - 台湾JCU股份有限公司
    - JCU KOREA CORPORATION
    - JCU VIETNAM CORPORATION
    - JCU(深圳)貿易有限公司
    - 銀座鈴蘭堂化粧品股份有限公司
    - PT. JCU Indonesia
    - JCU科技(深圳)有限公司
    - JCU(北京)貿易有限公司
    - JCU AMERICA, S.A. DE C.V.(メキシコ)
    - JCU INTERNATIONAL, INC.(アメリカ)
    - JCU CHEMICALS INDIA PVT. LTD.

役員一覧

代表取締役会長兼CEO	粕谷佳允
代表取締役社長兼COO	小澤亮二
専務取締役専務執行役員	君塚村隆
常務取締役常務執行役員	中村林
常務取締役常務執行役員	木村隆
常務取締役常務執行役員	小林伸治
常務取締役常務執行役員	大森昇
取締役常務執行役員	新井久徳
取締役常務執行役員	大森秀正
社外取締役	縄舟
社外取締役	高野寛
社外取締役	大伴夫
社外取締役	高井治
社外取締役	市川充
執行役員	山本一朗
執行役員	永井正
執行役員	木村昌
執行役員	松本順
執行役員	萩原秀
執行役員	谷野樹
執行役員	粕谷聖
執行役員	鈴木智
執行役員	林英彦

従業員数 連結522名(12名) 単体258名(12名)

(注) 臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含みます。)、は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。

## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日	期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
公告方法	電子公告 (http://www.jcu-i.com/) ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話 お問合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00～17:00)
各種手続 お取扱店 (住所変更、 株主配当金受 取り方法の変 更等)	お取引の証券会社等 になります。	みずほ証券 本店、全国各支店及び営業所 プラネットブース(みずほ銀行内の 店舗)でもお取扱いたします。  みずほ信託銀行 本店及び全国各支店 *トラストラウンジではお 取扱できませんのでご了 承ください。
未払配当金の お支払	みずほ信託銀行及びみずほ銀行の本店及び 全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります)	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合わせ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

## ホームページのご案内

ホームページでは、当社の企業情報をはじめ事業情報や、株主・投資家の皆様向けの情報として、決算発表資料等を適時掲載しております。



トップページ



IRページ

J C U

検索

<http://www.jcu-i.com/>

# 株 主 ひ ろ ば

## 株主優待について

当社の株主優待品は  
3月31日現在  
単元株以上保有の株主様へ  
右記のとおり、「ギフトカタログ」を  
お届けいたしております。



100株以上200株未満  
2,500円相当の品  
アクアマリン



200株以上1,000株未満  
5,000円相当の品  
クリスタル



1,000株以上2,000株未満  
10,000円相当の品  
ダイヤモンド



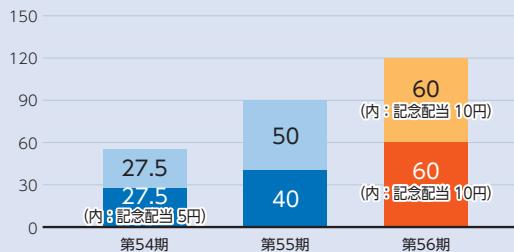
2,000株以上  
15,000円相当の品  
ラピスラズリ

## 株主還元について

### 利益配分に関する基本方針

当社は、将来の事業展開と経営体質の強化のために適正な自己資本比率を維持しつつ、業績の状況に応じて配当性向等を勘案し、安定した配当を実施することを基本方針としております。内部留保資金の用途につきましては、今後の事業活動並びに経営基盤の強化に有効活用していく方針であります。

配当金 (円) ■ 期末 ■ 中間



※第55期の期中(2014年10月1日付)に普通株式1株につき2株の割合を持って株式分割を行っております。第54期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり配当金を算定しております。



株式会社 JCU

〒110-0015 東京都台東区東上野四丁目8番1号  
TIXTOWER UENO 16階  
TEL: 03-6895-7001 FAX: 03-6895-7021  
<http://www.jcu-i.com/>

